

平成 26 年度 教育懇談会 グループ懇談要旨

1 家庭学習を習慣化するための家庭での取組 <考えられる取組・対応>

◎子どもの現状

- 中学生は部活のため普段はあまりしないが、テスト前は自主的にしている。
- 勉強に対する意欲があまりなく、宿題をやるのが精一杯な状態。
- 宿題をやらせるのに一苦労。
- 受験に向けて塾の宿題が多く、それをこなすのに精一杯。
- 兄弟でも家庭学習への姿勢が違い、難しい。
- 小学校のうちは家庭学習ができていたが、高学年、中学校になると部活動等で忙しく、家庭学習ができなくなる。
- 家庭学習は、宿題のみ。
- 通塾している。
- 子どもが自発的に学習するのは少ない。
- 小学生は毎日宿題がでて親も教えられるが、中学生は難しい。
- 中学校は宿題がでない。家庭での学習は、塾の宿題と試験前の勉強のみ。
- 動物など興味があったものは、図鑑等で調べている。

◎家庭学習を習慣化するための取組

- 宿題をやる子は、家庭学習に結びつきやすい。
- 兄弟姉妹がいる場合、兄や姉が言うと言うことを聞く。
- 「宿題終わった？」など声かけを行う。
- 夢を持たせることで、とてもやるようになった。
- 学童で宿題等をやってきたら、帰宅後リビングで見てあげている。
- テレビを破棄。その結果、読書量が大幅 UP。コミュニケーションがとても深まる。
- ゲームの時間を決める。
- 子どもの部屋は閉めない。
- あいキッズ、学童で宿題をやるよりは、家庭でリビング学習にしている。
- 保育園⇒就学前の学習よりも10の習慣をきちんとやる方が良い。（早寝・早起き）
- 宿題はやる。⇒自主学習の積み重ねが考える力を育てた。
- 音楽をかけながら自室で勉強⇒お母さんに質問もする。一緒に考える。
- 小さいころからの読書。習い事で困った時、書物を読む。
- 生活習慣を徹底させる。
- 学校の勉強があってこそその家庭学習。
- 小学生では宿題で音読が常に出ている。文章を読むことは大切であり、子どもが文字や文章に対してどれだけ理解しているかわかる。中学生では音読はないが、そのかわり新聞の社説を読むようにしている。子どもが書いたコラムを読ませたりしている。
- 子どものやりたいことをやらせている。
- 子どもが知りたがっているときに、大人が協力をしてあげる。
- 学年×10分の家庭学習を取り組んでいる。
- 野球クラブのキャプテンになったら、他の模範になるようにと家庭学習をするようになった。
- 中学生は部活で遅くなるが、30分は座ってリビング学習をするようにしている。
- 辞書を一緒に調べる。電子辞書よりも本で。
- 辞書にふせんを貼る。

- 料理本を作りたいと言い出したのをきっかけに、不要なパソコンを与えて、写真加工や手順の説明文の書き方等を指導。その結果、文章を書くことや写真をとることが好きになり、自ら工夫するようになった。
- サイエンスショー等で直接実験に触れさせる。
- 仕事（社会）の理解という面で、自宅で仕事をしている場合は、それを見せる。会社の場合は、協力を得て、会社見学等できると良いと思う。
- 中学では、勉強の仕方が小学校とは違ってくる。中間・期末テストの前に勉強の計画を立て、学校に提出し、試験後に三者面談で反省をする。
- 生活に関係ある身近な疑問（玉ねぎの切り方、絵具の材料は何か）を材料に、子どもとコミュニケーションをとる。算数であれば、スーパーのチラシやバーゲンセールで〇〇%オフはいくらかというような問いかけをする。
- 宿題だけはやらせるようにしている。宿題の量が多いと、家庭学習時間が増えることになる。
- 「〇時～〇時まで、テレビもパソコンも消して、宿題＋ α の学習をするように」ルールを決めている。
- 1日のスケジュールを作る。朝の学習をすることも。
- やったことを「見える化」する。（ホワイトボードにマグネット）
- 宿題をやってからでないと遊びに行かせないようにしている。
- 防災ラジオをつける。何かしながら社会状況を聞くことができる。
- 夕方は習い事があるので、朝学習を30分程度行っている。
- 英語をBGMにしている。
- そろばんを毎日やる。
- 塾に行ったら習慣がついた。
- 日記をつける。
- 土日に家の仕事をやらせる。
- 「夜8時を過ぎたら勉強」と強制的にしている。
- 子どもの目線で見えてあげる。大人目線から「それは無駄」とか言わないようにする。
- 中学生になると親の指示はまず聞かない。論理的に理解させ行動させる。例えば、脳のスイッチは「側坐核」にあり、スイッチは間髪入れずに行動することでONになる。習慣化させるには、脳内に新たな回路を作る必要がある。最低1カ月は続けること等論理的思考に働きかけることをしたい。

2 学校、教育委員会に期待すること

- 豊島区では、理科の実験の企画があった。理科好きの子どもたちが集まり、とても盛り上がって良かった。
- 学校が何校か集まって特色のある授業ができるといい。
- 課外でも、部活でも、学校の垣根を越えてコミュニケーションを取る。例えば、英語好きが各校から集まってコミュニケーションを取りあうなど。
- 人を傷つける言葉、あだ名等、言葉の持つ力の授業を行ってほしい。
- 学校の宿題⇒少ない。学力に格差が出る。公立教育では限界がある。保護者は塾優先？担任は宿題を多くは出せない。
- 宿題を毎日出してくれると習慣づけにつながると思う。
- 小テストの積み重ねで力をつけていく。評価していただくという方法も好ましい。
- 学校で直接実験に触れることができる機会を作ってほしい。
- 実際に手を動かしたり見たりするとその後にそれを自分で調べ、再現したいという動機づけにもつながると思う。
- 中学生でもある程度宿題を出してほしい。
- 少人数制。学力に合わせて分けるのは有効。
- タブレット使用は便利。

- 学習指導講師を増やしてほしい。
- 夏休みの自由研究⇒板橋区でやり方を統一してくれたら良い。（例えば、夏休みは親とのふれ合い。学校の授業で作成、発表。）
- 科学館等、学校で行ってくれるといい。
- 小学生は想像力が豊か。タブレット等の授業は、それをつぶしてしまうのではないか。タブレットを活用してもいいのではという意見もあった。
- 寺子屋で科学、冒険教室等とても楽しいが、教える側の人数が足りないので、全員は難しいのではないか？
- 子どもが興味をひく授業をしてほしい。
- 子どもが勉強以外に目を向けてしまう。⇒パソコンやタブレットで結果が出せるか。

3 その他

- 小学生はまだ大人が手を差し伸べてあげなくては行けないが、中学生もまだまだ声かけが必要。
- 子どもが好きなことをやっているときに大人が邪魔をしない。
- 講演で理系・文系の話があったが、サイエンス⇔現実的にはどうなのか？
- 科学未来館 年間パスで科学実験が無料になる。他のエリアの子どもと話ができる。刺激になる。子どもによって好き嫌いがある。⇒色々な機会が必要。
- 遊びも大事、睡眠も必要。習い事もある。
- 子どもの発想や疑問に、親として対応できるように、それが大切だということに気付いた。
- 通信教育等もしていたが、ただやっているだけで、あまり意味がないようで、どのように家庭学習をしたらよいか、試行錯誤している。
- 家庭学習は永遠のテーマだと思う。
- やる気をおこさせる（できないところを叱るのではなく、できたところを伸ばす）ことが大切なのではないか。
- 休日に行っているところ。・博物館・飛行機を見に・プラネタリウム・動物園・郷土資料館等板橋区内の施設
- 親と一緒に関わることの大切さ。
- 学校はほどほどでよくて、家庭での関わりがとても大事。タブレットも少しさわる程度。

【教育委員所感】

- あいキッズや学童で宿題をするよりリビング学習の方が良いというのは、同感である。
- 興味のあることややる気を引き出すというのは、まさにその通りだと思う。そのように伸ばしていただければと思う。
- 大人になっても学習や机に向かう習慣は大切なことなので、あきらめないで習慣をつけていていただきたいと思う。
- 「宿題やったの?」、「よく頑張ったね」等の声掛けを行うことが大切だと思った。
- 辞書で調べた箇所にふせんを貼り、辞書が閉じられないほどになるという辞書引きの話は、勉強した成果が本人に見え、続けていくことができるのではないかと感じた。
- 小学生ではできた家庭学習が中学生ではできなくなるという話があったが、本人が気付き、その気になるように、ご家庭で目を掛け、声を掛けて習慣を作っていただければと思う。
- クラブ活動等で自信を持たせること、リビング学習をすることで家庭学習が身についたという話が印象に残った。
- 自身の子どもも部活を始めたこと、また、リビングで勉強することにより家庭学習の習慣がついた。
- 論理的思考の話とてもためになった。